

平成 25 年 11 月 25 日

第 8 回子ども・子育て会議基準検討部会
意見書

NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会
奥山千鶴子

一時預かり事業についての意見

幼稚園、保育所入園前の乳幼児期の子育て家庭は、その時期の 8 割が在宅で子育てされているにもかかわらず、日常的に必要なに応じた支援サービスが必ずしも身の回りに多くないというのが現状です。子どもが生まれる前に、赤ちゃんの世話をしたことのない親が 7 割以上というデータもあります。これまで以上に初めての子育てを支える支援を早くから行う必要性があります。多くの子育て家庭が、出産を決めたところから、子育て支援が始まります。親の就労の有無にかかわらず、集団保育・幼児教育につながる前の産前・産後からの支援の充実が、親と子どものより良い成長発達の基盤となり、子どもの育ち、親子関係に大きな影響を及ぼすとされています。この時期の支援の充実を図り、親の自己肯定感、子育ての対する充実感が得られるよう、地域子育て支援拠点事業、一時預かり事業等のさらなる充実を求めたいと思います。

一時預かりについては、子ども・子育てビジョンで、10 倍に供給量を増やそうという計画だったはずですが（延べ日数 348 万日→平成 26 年度目標 3,952 万日）。新制度において、十分な質を確保しつつ、利用したいときには必ず利用できるという「利用の確実性の担保」が求められています。供給量を増やすあらゆる方法を考えてほしいと願っています。以下、ご検討をお願いします。

(1) 事業の特性

一時預かりの特徴として、預かりに不慣れな子どもを預かる、預けることに不安な保護者の対応をしないでならない。また、保護者は突発的な事態に備えて、見学をして登録だけするという場合もある。問い合わせも多く、一人一人に対応し、問い合わせ・見学に要する事務的な時間等、手間暇がかかる。

また、預かりのニーズの背景にある、家庭の課題（親の子育て不安、育児疲れ、精神的な負担感、夫のかかわりが少ない、単身赴任、求職、親の疾病、介護等）は多様であり、保護者支援、親子関係支援等重要な子育て支援である。

(2) 保育従事者の特性

初めて利用する子どもの不安を取り除き、根気よく一人一人に向き合い、抱擁的にかかわることが求められる。保育士を核としながらも、子育て経験が豊かで根気よく子どもに関われる人材に対して十分な研修を行い活用促進を行ってほしい。

(3) 保育士割合

(2) の理由から、これまでの地域密着Ⅱ型同様、保育士1名を核としながら、一定の研修を受けたものでの実施としていただきたい。これまでも、保育所型を補完し十分に対応してきた。保育士1/2条件では、事業運営が厳しいとの声が多い。保育従事者割合を増やすことで対応できないか。

(4) 児童:保育従事者割合

スポット利用が多いという一時預かりの特性から、1, 2歳児が定期保育者同様の6:1ということは考えにくく、横浜の地域密着Ⅱ型の場合は、0, 1, 2歳児すべて、3:1という基準で運営している。是非、充実させる方向性で考えていただきたい。事務負担が大きいことへの配慮も検討してほしい。

(5) 実施場所

供給量を増やしていくとなれば、子育て家庭に身近な一時預かりとして、実施場所を増やしていく必要がある。その促進をはかるためにも、賃料が発生することを前提に補助単価の設計を考えてほしい。

***参考例 (横浜市の15人定員の一時預かり事業)**

年間	242日稼働	利用料	1時間@300円
延べ利用者数	5,802人	(1日当たり)	約23人
年齢別利用者	0歳児 11%	3歳児	24%
	1歳児 27%	4歳児以上	6%
	2歳児 32%		
利用理由	就労		31%
	リフレッシュ		25%
	きょうだい児の用事		16%
	通院		7%
	子どもの友達・集団生活		7%

予約受付児童数	6,591人
キャンセル児童数	847人
当日緊急預かり	136人
新規登録児童数	560人
見学対応者数	420人

課題や日々の状況

- ・毎日定員いっぱいの予約が入っており、キャンセル待ちが常態化
- ・0.1歳児の預かり希望が増えている。
- ・障がいのある子、そのきょうだい児のニーズが増えてきている。
- ・保健師さんからの紹介、緊急預かりは、年間62人、延152日、730時間。
理由は育児疲れ、育児不安。母の体調不良。保護者の通院や緊急入院。出産等。